

穂いもちの伝染源となる上位葉での葉いもち発生が懸念されます。 予防剤や茎葉散布による防除を徹底しましょう。

現在の状況

- 1 水稻の生育（幼穂形成期）は、「ひとめぼれ」では平年より2日遅く、葉色値も平年より高い（7月16日、県農業研究センター調べ）。
- 2 7月下旬の巡回調査（県内148地点）では、葉いもちの発生圃場率は平年より少なかったが、県中南部の複数圃場で葉いもちの発生を確認した。いずれも葉色の濃い箇所が発生している。
- 3 基準圃場（北上市成田、接種）では7月第5半旬に、葉いもちの発病が増加した（図1）。
- 4 感染好適条件は7月13日と20日に全県で出現しており、今後、広域的な発生が予想される（表1）。
- 5 1か月予報によると、ここ2週間は寡照多雨の予報であり、今後、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉への発生が懸念される。
- 6 穂いもち防除の実施率は4割で（H30年）、近年は減少傾向にある（図2）。

防除対策

☆イネの葉色が濃く、今後も寡照の予報であるため、出穂直前まで感受性は高く推移すると推定される。

☆イネ上位葉（止葉、次葉、第3葉）への発生を防止するため、以下により防除を徹底する。

- 1 予防剤や茎葉散布による穂いもち防除を計画しているところでは、確実に実施する。
- 2 「銀河のしずく」、「いわてっこ」、「どんぴしゃり」等、穂いもち防除の省略を計画しているところでは、7月下旬～8月上旬に圃場内を観察し、上位3葉で発生を確認したら茎葉散布による穂いもち防除を行う。
- 3 穂いもち予防剤を施用した場合であっても、葉いもちの発生を確認したら、直ちに茎葉散布による防除を行う。

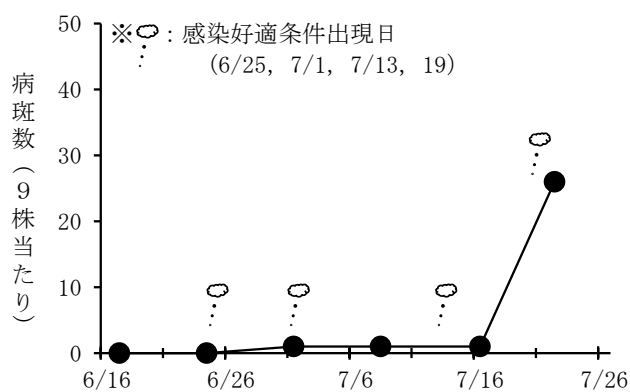


図1 基準圃場(北上市成田)における葉いもちの発生推移

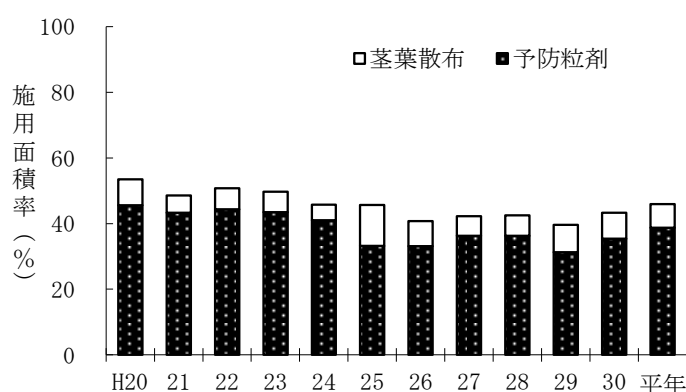


図2 穂いもち防除実施面積率の推移 (市町村防除実施報告)

